

「セーラー服は名古屋発」



セーラー服姿の金城女学校の生徒（1921年撮影）。
アメリカ人職員の娘が着ていたものを参考に、生徒自身が縫製したという＝金城学院提供

女子中高生の制服の定番となっている「セーラー服」を日本で最初に制服にした高等女学校は、名古屋市金城女学校（現・金城学院）だとする学術論文が近く発表される。従来の説では、福岡市の福岡女学校（現・福岡女学院）が有力とされてきたが、同じ1921年（大正10年）で3か月早い。この年以後、各地の高等女学校で次々とセーラー服が採用され、全国に広がったこともわかった。

論文をまとめたのは、服飾史を研究する刑部芳則（たけのり）・日本大准教授（日本史学）。全国のミッション系高等女学校57校を含む、数百校の私立、公立女学校の記念誌などを比較調査した結果、現在のセーラー服と同タイプの制服は、金城女学校が最も古かった。1996年発行の「金城学院百年史」に、21年の2学期（9月）からセーラー服着用が義務化されたことが、複数の生徒の証言として記録され、写真資料も残っている。

一方、従来の第1号とされてきた福岡女学校は、同校の記録によると、同年12月にセーラー服を制服として制定しており、3か月差ながら金城女学校が早い。ただし、セーラー服の起源には諸説あり、大手制服

大正10年9月 金城女学校 服飾史研究家が新説

メーカーのトンボ（岡山市）は、京都市の平安女学院が20年にセーラー襟のワンピース型制服を採用したのが最初という説を発表している。刑部准教授は「セーラー服の原型は欧米の水兵服なので、同じセパレート型でないとはセーラー服と言えないのでは」と反論している。

刑部准教授によると、女子生徒の制服は明治期は着物に袴だったが、大正中頃の服装改善運動で洋装化が教育的に推奨されるようになった。その流れで21年から独自判断でセーラー服を採用するミッション系高等女学校が各地で増え、昭和にかけて全国に広がったようだ。刑部准教授は「和装に比べて活動的で安価、しかもデザインが美しく、女子生徒の憧れを誘ったからではないかと考察する。」

「セーラー服については研究者が少なく、不正確な情報が広まっている。どの学校が一番早いかわからないという問題よりも、女性の洋装化を推進した歴史的意味をとらえ直したい」と刑部准教授は話す。論文は、日本大商学部学術誌「総合文化研究」で発表される。